

2017 年度文化庁委託事業報告書

福島県被災地方言の談話資料収集と保存継承活動

2018 年 3 月

福 島 大 学

人間発達文化学類 国語学研究室



《 目 次 》

■事業概要	1
-------	-------	---

■福島県内被災地方言談話資料	3
----------------	-------	---

双葉郡檜葉町

事業概要

1.事業の目的

本事業は以下の2点を目的とする。

- (1)福島県浜通りおよび北部阿武隈高地の方言談話資料の収集
- (2)被災地方言の保存・継承活動に長期的に取り組むための研究者ネットワークの構築

周知の通り、福島県太平洋沿岸の浜通り地方は東日本大震災において広く津波の被害を受けるとともに、東京電力の原子力発電所事故により、多くの自治体の住民が避難生活を強いられた。事故の被害は沿岸部にとどまらず、飯舘村、川俣町山木屋地区、葛尾村、田村市都路町、川内村といった阿武隈高地北部の各地へも及んだ。

福島大学では2012年から16年にかけて文化庁の委託を受け、被災地域各地の方言談話資料収集調査に取り組んできた。当初は県内他地域に設置された仮設住宅を訪問したり、県外避難をされている方々のもとを訪れたりして聞き取り調査を実施してきたが、近年は多くの避難指示地域で空間放射線量が低減して各地で指示の解除が進み、被災自治体を直接訪問することが可能となってきている。

避難指示が解除された地域の中には、事故前の80%近い人口が帰還した地域がある一方、商業施設や医療機関など生活インフラ復旧の遅れ等の影響で住民の帰還が捗らない地域も存在する。こうした地域では住民帰還の呼び水として積極的な交流人口の拡大を模索しているところが多く、教員が学生とともに被災地を訪れ、方言調査を実施すること自体が直接被災地域の復興の一助となりうる。

昨年度調査に訪れた地域でもインフォーマントから「久しぶりに若い人と話をして楽しかった」「町中を若い人が歩いているだけで元気が出る」などの声を耳にし、談話収集調査が早くに帰還された高年層の方々の「傾聴支援」につながっていることを実感している。今年度も従来同様、避難指示解除地域にお伺いし、方言談話資料を収集することを通して被災地の支援に取り組みたい。

また、この間福島県内の私立大学(いわき明星大学、奥羽大学)に相次いで方言研究者が着任し、福島大学と共同で本事業に取り組む体制が整った。福島大学の立地する福島市から、被災地の存する浜通りや阿武隈高地までは、同県内といえども場所によっては移動に2時間以上かかることも多く、調査の妨げとなっていた。被災地に立地するいわき明星大学、県内各地とアクセスが容易な郡山市に位置する奥羽大学と連携することで、県内被災地方言の記録・保存活動の効率が格段に向上する。昨年度、本事業受託を機に福島大学内に立ち上げた「福島県方言研究センター」を引き続き運営し、3大学(および県外)の福島方言研究者が長期的に県内被災地方言の保存・継承活動に携わるための基盤整備を行う。

2.事業の実施体制

本事業の実施体制は以下の通りである。

責任者

半沢康(福島大学人間発達文化学類・教授)

・全体の統括。方言談話資料収集調査のマネジメント(浜通り北部地域担当)。実査。

分担者

玉懸元(いわき明星大学教養学部・教授)

- ・方言談話資料収集調査のマネージメント(浜通り南部地域担当)。実査。

白岩広行(立正大学文学部・講師)

- ・実査。

本多真史(奥羽大学歯学部・講師)

- ・方言談話資料収集調査のマネージメント(阿武隈高地北部地域担当)。実査。

協力者

小林初夫(浪江町立幾世橋小学校および福島市立岡山小学校・教諭[兼任])

- ・県外避難者を対象とした談話収集調査。

3.業務実施報告

(1)被災地方言の談話資料収集

引き続き県内被災地方言の自然談話資料収集を実施した。被災地方言継承の観点から、各地の方言の全体像(音韻、文法、語彙、アクセント、イントネーション)を精緻に把握することが不可欠である。これまでのデータに加え、さらなる談話資料の蓄積を図った。

今年度は特に、避難指示が解除されて住民の帰還が始まった地域に赴き、先駆けて地域に戻られた高年層の方々にお話を伺った。震災時の話のみならず、小さいころの思い出や地域の行事、文化などさまざまなお話を聞かせていただいた。お話を伺うに際し、被災された方々の傾聴支援にもつながるよう心を砕いた。

調査結果の一部をCD化して公開した。

(2)方言研究者ネットワークの構築

福島大学の「プロジェクト研究所」制度を活用して福島大学内に「福島県方言研究センター」を組織した。分担者ほか学内外の言語研究者に研究所の研究員(プロジェクト研究員)を委嘱し、被災地方言の調査研究を継続的に実施していくための体制整備を引き続き行なった。

2018年3月6日(火)には、福島大学において本事業の成果報告を行った。

福島県内被災地方言談話資料

以下には本事業で収集した福島県内被災地方言の談話資料を掲載する。今年度は主に双葉郡檜葉町において談話収集調査を行なった。

いずれの談話資料もおおよそ1時間～2時間程度、東日本大震災の体験や子供のころの地域の思い出、戦争体験などについて、複数のインフォーマントに自由に会話をしていただき、その様子を録音させていただいたものである。檜葉町の貴重な方言資料であると同時に「震災や町の記録」としても重要な意義を持つ。本書掲載はこれも紙幅の関係でその一部(5分程度)にとどまるが、残りの部分についても他地点の資料とともに適宜整理を進め、準備が整い次第、順次「事業概要」にて紹介した「福島県内被災地の方言情報を発信する web ページ」に掲載する予定である。

文字化作業は福島県内のテープ起こし業者へ業務を発注した。詳細な方言音声の書き分け等を行なっておらず、以下の資料はあくまでも「速報版」であることをお断りしておく。

文字化の方法等については、東北大学方言研究センター編 2013『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』の基準にほぼ従っている。ただし「聞き取り不能」の箇所は理由によらず、すべてxxxのように表記した。またあいづちや笑い声などの非言語音は表記していない。

下段の共通語訳は、福島大学人文学類 2017 年度開講「日本語学演習 II」受講者が分担して草稿を作成し、演習の授業の中で責任者とともに相互に確認を行なったものである。受講者はいずれも談話収集調査に参加している。草稿作成者名は各談話資料の末尾に示した。

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡楡葉町 —

[収録場所] 話者ご自宅

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性), C(高年層女性)

[調査者] 小林初夫, 大橋ひとみ, 棚木大智, 吉田美月

—:そのころはあれですかね, だいたい農業中心ですよ, 町全体が。

001A:ソーデスネ。

そうですね。

—:ですよ。

002A:ホトンド ノーカデシタカラネ。

ほとんど 農家でしたからね。

—:農家だと, 自分の家でいろんなものを作っていますから, あまり買わないで自給自足という感じで。

003A:ソーデスネ。トーフニ サガナ。 ニグナンテワ ソンナニ タベナカッタカラネ。

そうですね。豆腐に 魚。 肉などは そんなに 食べなかったからね。

004B:タバラレナイネ。ニワドリ ヨグ クビ キツテ ニワドリ タベダンダヨ。

食べられないね。鶏 よく [鶏の]首[を] 切って 鶏[を] 食べたんだよ。

ナイガラ。

[肉が]ないから。

005C:ウサギナントモナ タベデ。ウサギ。ウサギナント タベダドギ アツタ。

うさぎなども 食べて。うさぎ。うさぎなど 食べたこと あった。

006B:ウサギワ ワガンネゲド ニワトリ クビ チョンギツテ サガサニシテ オイデ

うさぎは わからないけれど 鶏[の] 首[を] 切って 逆さにして おいて

ウジノ カーチャン ハハオヤワ ショーガズ チカグナット クビ チョンギラレル。
家の お母さん 母親は 正月 近くになると [鶏は]首[を] 切られる。

パタパタ パタパタ。
ぱたぱた ぱたぱた。

007C:ソレガ ゴチソーダッタダヨ。
それが ご馳走だったんだよ。

一:そういう中でいいほうなんでしょうね。

008B:イマ コンナゴド ヤッタラ コドモダジ ナイツチマーヨネ。
今 こんなこと[を]したら 子供たち[は] 泣いてしまうよね。

ウジラノ コロワ ナガッタカラダガナンダガ ソレガ アダリマエダド
私たちの ころは [なにも]なかったからだからなのかそれが 当たり前だと

オモッタダッペネ。 クビ チョンギラッチ サガサニ ツルシテ オグンダヨナ。
思ったんだろうね。 首[を] 切られて 逆さに 吊るして おくんだよな。

アシ シバットット チー シタニ。 ンジャッテ ハネワ イゴグワイ。
脚[を] 縛っておくと 血[が] 下に[垂れる]。 だって 羽は 動くよ。

一:まだ生きてるわけですね。

009B:イキテンダ。 ソシテ ソレオ ヒー モヤシテ ケオ ヤイデ
生きているんだ。 そして それを 火[を] 燃やして 毛を 焼いて

ムシツタリ ナンカシテ。 コドモントギ イヤ カワイソーニ ナンテ オモッタケド ソレ
むしったり なんかして。 子供のとき いや かわいそうに なんて 思ったけれど それ[を]

タバダダガラ ソレネ。
食べたんだから それね。

010C:ダッテ ナンニモ ナガッタ。
だって なんにも なかった。

一:今, C さん, うさぎ食べたお話されましたけれども, うさぎはどんなふうにして食べたんでしょうか。

011C:カワ ムイデ。
皮[を] むいて。

—:はい。

012C:ホシテ ソノカワワ センソーサ アノー ボーカンノ アレニ ヤグタデタッテ ウサギノ
そして その皮は 戦争へ あの 防寒の あれに 役立てたって うさぎの

カワワ。 ソシテ ニグナントワ ハイキューニ ナツタリ ナニガ シテモラッテ
皮は。 そして 肉などは 配給に なったり なにか してもらって

タベマシタ。
食べました。

—:それは、煮たり焼いたりして食べたということですか。煮たり焼いたりして。

013C:イヤ ソーデス。
いや そうです。

—:生で食べたことはありますか。

014C:ナマワ ナイ。
生は ない。

—:生はないですか。例えばうさぎの刺身を食べたとか。

015C:ソンナノワ ナイネ。
そんなのは ないね。

—:ああ、そうですか。聞いたことはありますか。

016A:ウサギノ サシミナントワ キーダドギ ナイネ。
うさぎの 刺身などは 聞いたこと ないね。

—:全く聞いたことありませんか。

017C:キーダドギ ネーナ ウサギノ サシミ。
聞いたこと ないな うさぎの 刺身。

018B:ナイワネ。 サシミナントワネ。 アド ヤギワ ヤギモ コロシタゴド アッカモ
ないわね。 刺身などはね。 あと 山羊は 山羊も 殺したこと あるかも

ワガンネネー。 ウン。
しれないね。 うん。

一:山羊食べたことはありますか。 山羊の肉は。

019B:ヤギワ タベタヨーナ キースル。
山羊は 食べたような 気がする。

020C:ヤギ？
山羊？

021B:オドゴヒトラ ヤマニ ツレデッテ キョーワ ヤギ ヤットガ ナントガッテ
男の人たち[が] 山に 連れて行って 今日 山羊[を] 殺すとか なんとかって

ユード ミンナ アズマッテ クンダガ ワガンナイネ。 ニグ アレスンノニ。
言う と みんな 集まって くるのかも しれないね。 肉[を] あれすんのに。

ソースット コゴラヘンニ ナンカデ ハダグド イッカイデ ポクット イゲバ イーケド
そうすると ここらへんに なんかで 叩くと 1回で ぼくっと 死ねば いいけれど

イッカイデ ウماغ イガナイド メーメーッテ ナグヨーダド マワリノ シトガ
1回で 上手く いかないと メーメーって 鳴くようだと 周りの 人が

イヤ ソグネダナーッテ ソントギ コドモダッタガラネ ハハハ。
いや しくじったなって そのとき 子供だったからね ははは。

ヤマニ ツレデッテ イヤイヤ イヤ ソグネダナーッテ ホカノ ヒトラガ オドナノ
山に 連れて行って いやいや いや しくじったなって 他の 人たちが 大人の

ヒトガ ユーノネ。 ナンデダガナード オモッタラ イッパズデ コー バチット ヤレバ
人が 言うのね。 なんてかなと 思ったら 一発で こう バチっと やれば

イーノニ ソグネット ナグンダッテ メーッテネ。 ンダガラ イヤイヤ。
いいのに しくじると 鳴くんだって メーッてね。 だから いやいや。

022C:イマミデーニ ホーフニ ニグダノ サガナワ ナガッタガラ ミンナ イロイロ。
今みたいに 豊富に 肉や 魚は なかったから みんな いろいろ。

ジブンノ ウジデ タデダモノオ ウン。
自分の 家で 飼ったものを うん。

023B:ヤツテネ。 ヤギ タデデ。 アド Cチャンラワ ヤンナガッタ? アノ・・・
やってね。 山羊[を] 飼って。 あと Cちゃんたちは しなかった? あの・・・

024C:ヤギ?
山羊?

025B:ヤギノ チチ シボッテ ノンダノ。
山羊の 乳[を] 搾って 飲んだの。

026C:ウン。 チチ シボッターリ。
うん。 乳[を] 搾ったり。

027A:ナンテワ。
なんては。

028B:ヤンネガッタ?
しなかった?

029A:ヤンナガッタネ。
しなかったね。

030B:アシ シバッテ マエ シバッテ。
脚[を] しばって 前[を] しばって。

031C:ンダヨ。
そうだよ。

032B:ユーガダニ ナット オユデ フイデ コー シボッテ ソレオ ワカ・・・ワガスマエニ
夕方に なるお湯で 拭いて こう 搾って それを 沸か・・・沸かす前に

コシタンダツケガナー。 アノ サラシガ ナンカデ。
こしたんだっけかな。 あの さらに なにかで。

—:ふきんでこして。

033B:ソー。

そう。

—:そして、沸かして。

034B:ワガシて。

沸かして。

—:沸騰して、こぼれる寸前ぐらいに止めてですね。

035B:ソーソーソー。

そうそうそう。

036C:ソレガ エーヨーダッタノ。

それが 栄養だったの。

037B:ウン。エイヨー アッテ。 コドモ キョーワ ナンニン インダ ナンテ ジブンノ
うん。栄養[が] あって。 子供[は] 今日は 何人 いるんだ なんて 自分の

ウジノ バッカリワ アノ ノマナガッタンダネ。ニンズーブン チャワン オイデ
家の ばかりは あの 飲まなかったんだね。人数分 茶碗[を] 置いて

オークテモ スクナクテモ コー ソーユー ノマセラッチャ オボエワ アルネ。
多くても 少なくとも こう そういう 飲ませられた 覚えは あるね。

ヤギ タデデ ミンナ ジブンデ ヤッテ。

山羊[を] 飼って みんな 自分で やって。

(小泉明日春)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡楡葉町 —

[収録場所] 話者ご自宅

[話者] A(高年層男性), B(高年層男性), C(高年層女性)

[調査者] 本多真史, 人見はるか, 徳田祐奈, 長沼哲平, 芥川春佳

001A: チッチャイ ウジ ダツタンデスヨ。ナントモショネモンナー コレ イルシカ
[避難したのは] 小さい 家 だったんですよ。どうしようもないものな これ[は] いるしか

ネーナド オモッテ ソゴニ イッシューカン オセワニ ナリマシタ。
ないなと 思って そこに 1週間 お世話に になりました。

テレビトカ シンブンデワ ミズクミネ ヒトリ ポットデ ポットデカ イッポン ナンテ
テレビとか 新聞では 水汲みね ひとり ポットで ポットでか 1本 なんて

ゲンテーサレテ アレワ ワガツマシタゲットモ ミズクミ ミッカ ヤリマシタ
限定されて あれは わかっていましたけれども 水汲み[は] 3日 しました

ポット イッコ モッテ。ソシテ ヨゴハマデ イル アネガラ サンザン デンワ
ポット[は] 1本 持って。そして 横浜に いる 姉から さんざん 電話[が]

クルンデスガ イグゴド デギナインデスネ。 ガスリンガ ハイッテナクテ。
来るんですが 行くこと[が] できないんですね。 ガソリンが 入ってなくて。

オヤゴ ロクシチニンカナ クルマニダイ モッテッタモンデ オッキーホーノ ムスメガ
親子 6, 7人かな 車2台[を] 持っていったもので 大きい方の 娘が

サイタマノ オバサマントゴサ イグガラ ジャ メータート キロ イマノ ガスリンノ
埼玉の おばさまのところへ 行くから じゃあ メーターと キロ 今の ガソリンの

メータート キロスト インターサー カンジョシテ イガレッカ イガンニガ
メーターと キロ数と インター数 数えて 行けるか 行けないか

サギ イッテ ミッカラド デガゲデ イッタ。 ホーシテ ヨチカンクレ タツタラ
先[に] 行って みるからと 出かけて いった。 そうして 4時間ぐらい 経ったら

デンワ キタ。 ナントガ マンニヤッタガラ オメラモ ナンボ
電話[が] 来た。 なんとか 間に合ったから お前たちも [ガソリンが]どれくらい

ハイッテンダッテ。 オトートノ クルマ ダイタイ ヤリトリシテ ダイタイ
入っているんだって。 弟の 車 だいたい やり取りして だいたい

マンニヤーカーンドモ アブネド オモッタラ マエノ インターデ オリロト。 ソーユー
間に合うけれども 危ないと 思ったら 前の インターで 降りると。 そういう

ヤリトリ ミツニ シナガラ ズット ハシッテッテ。 ホーテ サイタマノ インターデ
やり取り[を] 密に しながら ずっと 走って行って。 そして 埼玉の インターで

オリダラ モー クルマ イゴカナインデスヨ ゼンゼン。 ワタシドモ ノッテル
降りたら もう 車[が] 動かないんですよ 全然。 私たち[が] 乗っている

クルマジャ ナクテ ドーロガ。 ナンダド オモッタラ ガソリンスタンドデ マッテル
車では なくて 道路が。 なんだと 思ったら ガソリンスタンドで 待っている

ワゲデスヨ。 ズーッと ニキロモ サンキロモ ツナガッチャッテ。 イヤ コマッタナード
わけですよ。 ズーッと 2キロも 3キロも つながってしまっ。 いや 困ったなど

オモッテ ホシテ サギ ツイテル ムスメニ デンワシタラ ジャ チョット
思って そして 先[に] ついている 娘に 電話したら じゃあ ちょっと

マッテナンテ オバサマニ キーデ イマ ドコラヘンニ イルンダト。 コーユー ドゴダ
待ってなんて おばさまに 聞いて 今 どのへんに いるんだと。 こういう ところだ

ナンテ ソゴ ミギサ ヨッテ ウラミジ トーレツテ イワレテ ダイタイ
なんて そこ[を] 右へ よって 裏道[を] 通れって 言われて だいたい

オセラレテ ホシテ チョード ソノ ナランデル スタンドノ ヒャクメーター テマエガラ
教えられて そして ちょうど その 並んでいる スタンドの 100メートル 手前から

ミギサ オレデ タガイ ヤマサ アガッテッタラ ヤマノ ウエデ テー フッテル
右へ 曲がって 高い 山に 上がっていったら 山の 上で 手[を] 振っている

ツンデ イガレッカラ ダメダッテ ムスメノ オヤジガ ユーワゲナンデス。イヤ ダメダ
積んで いけるから 駄目だって 娘の 親父が 言うわけなんです。いや 駄目だ

カギ オグドゴガ ワガンナガッタンデスヨ。 キンコノ カギ アットコロ。
鍵[を] おくところが わからなかったんですよ。 金庫の 鍵[が] あるところ。

ジャ ワダシモ イグトナッテ ホシテ シャリムリ ノッカッテキテ ソゴノ
じゃ 私も 行くとなつて そして いやでもおうでも [車に]乗ってきて その

ジョーバンコーソグサ ノッカッテ ヨツクラエト インターデ オリタラ タブン
常磐高速自動車道に 乗って 四ツ倉へと インターで 降りたら 多分

セブンイレブン チョード アンデスネ オリタトコニ アンダヨネ。
セブンイレブン[が] ちょうど あるんですね [高速を]降りたところに あるんだよね。

ソゴデ イッセー ヤッテンダド オモッタノ。 ソシテ
そこで [避難区域に入る人の]一斉検問[を] しているんだと 思ったの。 そして

ムスコガ ヨージッテ ユーノ。ヨージ ドースンダ メンキョショー ナラハサ
息子が 用事って 言うの。用事[は] どうするんだ 免許証[を] 檜葉に

カギカエタノ？ イヤ カギカエネ ヒロノダ ジャ イガッタンツツッテ
書き換えたの？ いや 書き換えない 広野[のまま]だ じゃあ よかったなって言って

ホシタラ ドゴマデ イグンデスカッテ キカレタ。 ハイ ヒロノマデ イギマスッテ
そしたら どこまで 行くんですかって 聞かれた。 はい 広野まで 行きますって

フリーパスダ サーット。 ソゴデ ロクゴーセンサ ブツガッタラ マダ
フリーパスだ サーっと。 そこで 6号線に 合流したら また

ゴジューニクレ イダノ。コンドワ トメネベド オモッタラ
50人ぐらい いたの。今度は 止めないだろうと 思ったら

トメナガッタデスヨネ。 ムゴーノ セブンイレブンデ イッカイ ヤッテマスカラ。
止めなかったんですよ。 向こうの セブンイレブンで 1回 [検問を]していますから。

ホシテ コンド デンノワ コレ ヒロノカリョグガナド オモッテ デナガッタデス。
そして 今度 出るのは これ[は] 広野火力かなと 思って 出なかったです。

ソシテ サッカージョーノ イリグチダロート オモッテ キタラバ コレマダ
そして サッカー場の 入口だろうと 思って 来たら これまた

イナカタデス。 アッ コレワ ダイジョーブダド。 ホシテ キテ ゴフンカンクレデ
いなかったです。 あっ これは 大丈夫だと。 そして 来て 5分間くらいで

コッチ キチョーシンダケ モッテ ホシテ マダ ヨゴハママデ ネゲタンデス。
こっち 貴重品だけ 持って そして また 横浜まで 逃げたんです。

ホシテ ソレカラ シトノヤツノウチサ イダッテ アネワ キョーダイダケントモネ
そして それから 人の家に いても 姉は 姉弟だけれどもね

ウチンナカ ミンナ チー カヨッテル ワケデワネーシ ソロソロ
家の中 みんな 血[が] つながっている わけではないし そろそろ

イゴカネッカ ナンネナード オモッテ ムゴニ ユッタラ
[別のところへ]動かなければ ならないなと 思って お嬢さんに 言ったら

サガシテ ミツカラ ナンテ イマ ケータイデ サガサレルンデスネ。 ホシタラ
[家を]探して 見るから なんて 今 携帯電話で 探せるんですね。 そしたら

ムガシノ ジュータグコーダンノ チューコブッケン マチダニ アルッテ。ヤマンナカデ
昔の 住宅公園の 中古物件[が] 町田に あるって。山の中で

ヨンカイダテナンダケド エレベーター ネーндаッテ オトーサン ダイジョーブガツガラ
4階建てなんだけれど エレベーター[が] ないんだって お父さん 大丈夫かって言うから

イヤ ダイジョーブモ ダイジョーブデネモ ホンナコド カダッテランニェ。
いや 大丈夫も 大丈夫でないも そんなこと 言っていられない。

ホシテ イッタラ ホシタラ ナルホド フルーイ ブッケンナンダケド ナガワ
そして 行ったら そしたら なるほど 古い物件 なんだけれど 中は

アノ リフォームシタ バッカリデ ヨジョーハン ニコノ リビング アッテ
あの リフォームした ばかりで 四畳半 ふたつの リビング[が] あって

ログジョードガ アッタンデスヨ。ホーテ アルトギ カイモノニ イッテキテ ミダラバ
六畳[の]ところが あったんですよ。そして あるとき 買い物に 行ってきて 見たら

ウジノ バッパド マゴガ ワンワン ナイデンデスヨ。 ナニ
家の おばあさんと 孫が わんわん 泣いているんですよ。 なに[が]

アッタダツッタラ ソノ モト ジュータクコーダンノ アレガ ヨンカイダテノ
あったんだって言ったら その 元 住宅公団の あれが 4階建ての

ベランダニ アレガ コーシガ ナカッタ テスリガ。 ソンナコト ワレワレ
ベランダに あれが 格子が なかった 手すりが。 そんなこと われわれ[は]

ワガンナカッタノヨ。 ホータラ バッパ ナニ ヤッテダダガ
わからなかったんだよ。 そしたら おばあさん[は] なに[を] していたのか

ワガンネゲド スリズリ シテルウヂニ ヨッチヨッチアルギノ マゴガ ベランダサ
わからないけれど ×××× しているうちに よちよち歩きの 孫が ベランダへ

イッテダノ。 カンイッパツ。 ホシテ コドバ カゲダラ アドシッチャリシタラ
行っていたの。 間一髪。 そして 言葉 かけたら [孫が]あとずさりしたら

コレワ ダメダナド オモッタガラ ヨースオ ミデ アッチノホー ミナガラ サーット
これは 駄目だなと 思ったから 様子を 見て あっちの方[を] 見ながら サーット

ツカンデ リビングサ ブチナゲデ ヨゴシタノ。
つかんで リビングに 投げて よこしたの。

(徳田祐奈)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡檜葉町 —

[収録場所] 檜葉町まなび館

[話者] A(高年層女性), B(若年層男性)

[調査者] 本多真史, 二階堂千紘, 長沼哲平, 芥川春佳

001A:サガナヨリ ニクノ ホーガ。

魚より 肉の 方が。

—:肉のほうが好きなんですね。そういえば、戦時中、さつま芋とかを食べていたというふうに先ほど伺ったんですけど、なにか戦時中に食べたものでおいしかったとか、あれはおいしくなかったとかというふうに思い出に残っている食べ物とかあってあたりしますか。

002A:アー オイシカッタッテユー タベモノワ ナイデスケドモ タダ マイニジ マイニジ
ああ おいしかったという 食べ物は ないですけども ただ 毎日 毎日

タベサセラレデ イヤダッタナーッテ ユーノワ サツマイモトカ ムギトカ。ゴハンッタッテ
食べさせられて いやだったなあと いうのは さつま芋とか 麦とか。ご飯といっても

ムギガ オーインデスモンネ。

麦が 多いですものね。

—:麦ご飯の麦が多くて。

003A:ウン。ムギワ ハタケデ トレタカラネ ダカラ ムギワ アレダッタケドモ コメワ
うん。麦は 畑で 採れたからね だから 麦は あれだったけれども 米は

カッテ コナッカ ナンナイカラ。

買って こなければ ならないから。

—:じゃ、今もさつま芋はお嫌いですか。

004A:イマ サツマイモワ メッタニ タベルコトワ アリマセンネ ハハハ。ヒタチノホーノ
今 さつま芋は 滅多に 食べることは ありませんね ははは。日立の方の

トモダチガ マイトシ アノ ホシーモオ オグツテ クレンデス。 オイシーナート
友達が 毎年 あの 干し芋を 送って くれるんです。おいしいなど

オモツテ タベマス。ムカシワ ソンナノネ モー ワラデ デキタ アノ タワラネ
思って 食べます。昔は そんなのね もう わらでできた あの 俵ね

アレニ デキタノオ イレテオクデス。 ダイタイ カワイタノ。 ソースルト シロコ
あれに できたのを 入れておくんです。大体 乾いたもの。 そうすると 白い粉[が]

フクデスヨ。 ソーナルト オイシーンデスヨ。
吹くんですよ。 そうなると おいしいんですよ。

一:はい。

005A:スルト ワキカラ コーヤツテ ダシテネ ツマンデ ヨク タベマシタケドネ。
すると 横から こうやって 出してね つまんで よく 食べましたけれどね。

一:じゃ、昔、3時ごろに食べてたのは、そういったさつま芋だったりしたんですね。

006A:ソーデスネ。サツマイモトカ ホシガキトカネ ソーユーノ オヤツデシタネ。
そうですね。さつま芋とか 干し柿とかね そういうの[が] おやつでしたね。

一:ここら辺は空襲とかあったりしたんですか。

007A:クーシューツテ トクベツワ ナカッタンデスケドモネ アノー アノコロ ノーカワ
空襲って 特別は なかったんですけれどね あの あのころ 農家は

ミンナ ソドニ トイレガ アッタンデスヨ。ソシテ トイレニ デダドギニ ババババ
みんな 外に トイレが あったんですよ。そして トイレに 出たときに ババババ

バババーント ウエ ヒコーキ トンダノガ スゴイ オトデ アノ バクダン
バババーンと 上[を] 飛行機[が] 飛んだのが すごい 音で あの 爆弾

ミタイノ オチタンデスヨ。ビックリシテ トビコンデ キタンデスヨネ。ソシタラネ
みたいなの[が] 落ちたんですよ。びっくりして 飛び込んで きたんですよ。そうしたらね

カンポーシャゲギッテ ナナメニ トブ
艦砲射撃という 斜めに 飛ぶ

一:艦砲射撃。

008A:ウン アノ タマダッタデスネ。ダイブ アノ イデガワマデ ナンボ イチキロカ アルカ
うん あの 弾でしたね。 だいぶ あの 井出川まで いくらか 1キロぐらいあるか

イリバシッテ ユッテ イデガワガ アリマシテ ソコニ コーユウ テスリガ
入橋って 行って 井出川が ありまして そこに こういう 手すりが

アツタンデスヨ。ソコノドニ オチテ アナガ アイテマシタ。ナナメニ トブ アノ
あったんですよ。そののところに 落ちて 穴が 開いてました。斜めに 飛ぶ あの

バクダン ナンデスネ。ソナナコドガ アリマシタシ アノー ヨナカニ カイガンノホーデ
爆弾 なんですね。そんなことが ありましたし あの 夜中に 海岸の方で

モトワ ウミ ミエマシタ。イマワ キー オツキク ナツチャッテ チョット
もとは 海[が] 見えました。今は 木[が] 大きく なってしまって ちょっと

ミエナインデスケド ウミガ ミエタンデスヨ。オキノホーデ バンバン バンバン
見えないんですけど 海が 見えたんですよ。沖の方で バンバン バンバン

スゴイオトガ シタンデス。ビックリシテネー トビオキテ ハハオヤ ナンテワ マメオ
すごい音が したんです。びっくりしてね 飛び起きて 母親 などは 豆を

イリマシタヨ。ソシテ ミンナニ フクロニ イッタ マメオ イレテクレテ ソシテ アノ
煎りましたよ。そして みんなに 袋に 煎った 豆を 入れてくれて そして あの

シンセキノ ジューショ カカッタ ジューショト ナマエ カガッタ テチョー
親戚の 住所[が] 書かれた 住所と 名前[が] 書かれた 手帳[を]

モタセラレテ モシモノコト アツラッテ ソナナコト イチド ニドワ アリマシタネ。
持たせられて もしものこと[が] あったらって そんなこと 一度 二度は ありましたね。

デモ ジューハチネン ダカラ シューセンノ マエノ トシダカラネ アタシラ コーヤッテ
でも [昭和]18年 だから 終戦の 前の 年だからね 私たち こうやって

ダガラ ソンナニワ ヒドグ ナガッタデスケネ。 デモ ヤッパリ ボークーゴーニ
だから そんなには ひどく なかったですけどね。でも やっぱり 防空壕に

チャント ツクツテ ハイッテル ヒトモ イマシタモンネ ナニカ アルトネ。
ちゃんと 作って 入っている 人も いましたものね なにか あるとね。

一:A さんも入った経験がおありなんですか。

009A:アタシ ボークーゴーワ ナインデスケド アノー ウチンナガッテッテモ ドマナンデスヨ。
私[は] 防空壕は ないんですけど あの 家の中っていっても 土間なんですよ。

ドマニ カッタ カヤヤ ナンカノ カワガシタノオ ズーット シーテ ソコニ
土間に 刈った 茅や なにかの 乾かしたものを ずっと 敷いて そこに

イタクライ シータンダカナ ムシロクライ シーテ ソコニ フトン シーテ ソシテ
板ぐらい 敷いたのかな むしろぐらい 敷いて そこに 布団[を] 敷いて そして

ネテタカラ ソコニ ナンカ ミカンバコツテ ムカシ コンナ アンナ ミカンバコオ
寝ていたから そこに なにか みかん箱って 昔 こんな あんな みかん箱を

ナラベテ ソコノ ウエニ ダンダンニワ イタオ シーテ フトンオ シーテ ネタンデスヨ。
並べて そのの 上に 段々に 板を 敷いて 布団を 敷いて 寝たんですよ。

ジメン ジカダト ムシガ キテ スゴインデスヨネ。ダガラ ソンナゴトシテ
地面[に] 直接だと 虫が 来て すごいんですよ。だから そんなことして

ベット ミタイニ ツクツテ モラッテ ネデダンデス。 デモ アノオトワ ビックリ
ベッド みたいに 作って もらって 寝ていたんです。でも あの音は びっくり

シマシタネ。 ヨナカニネ ウミノホーデ パンパン パンパン パンパン パンパン
しましたね。夜中にね 海の方で パンパン パンパン パンパン パンパン

モノスゴクッタデス。 モー サイゴカナト オモッテ ワタシラモ フルエテマシタ。
ものすごかったです。 もう 最後かなと 思って 私たちも 震えていました。

一:夜だとなおさら怖いですよ。

010A:ウン。

うん。

一:戦時中のことなんですけれど、学校で竹やりだとか長刀というふうなものはやりましたか。

011A:アレワネ アタシノ トシデワネ ヤンナガッタンデス。ワタシヨリ ニネンサンネン ウエノ
あれはね 私の 年ではね しなかったんです。 私より 2, 3年 上の

アネタチワネ タケヤリノ レンシューシタリ ナギナタノ レンシューシタリ
姉たちはね 竹やりの 練習したり 長刀の 練習したり

シテマシタネ。アト マチノ ハズレニネ クラカケヤマッテ ヤマガ アルデスヨ。
してましたね。あと 町の はずれにね 鞍掛山って 山が あるんですよ。

ソコニ ヘーシャガ アッタンデス。ソッテ ソノシタノホー ズーット トーッテイクト
そこに 兵舎が あったんです。そして その下の方[を] ずうっと 通っていくと

イマノ ナミクラ ダイニゲンパツノ アルホーノ イクミチナンデスケド アノ マエワ
今の 波倉 第二原発の ある方に 行く道なんですけれど あの 前は

キモ ソダッテナカッタセーカシラ ウエデ コーユーフーニ テバタ テバタ ヤルト
木も 育っていなかったせいかしら 上で こういうふうな 手旗 手旗[を] すると

シタ トールト トモダチト コレ デキルンデスヨ ミエテ。
下[を] 通ると 友達と これ[が] できるんですよ 見えて。

一:へえ。じゃ、長刀とかはやってらっしゃらなかった。

012A:ソレモ ワタシワ ヤリマセン。アト アノ アニタチワ ワタシヨリ フタツオッキー
それも 私は しません。 あと あの 兄たちは 私より 2歳上の

アニワ ナンテ ユーンデスカ アノ・・・ナンダッケ アレ ナントカツーシン
兄は なんて いうんですか あの・・・なんだっけ あれ なんとか通信

ナントカ・・・
なんとか・・・

013B:モールス。
モールス。

014A:モールス。アレ ヤッテマシタネ。ワタシラノ コロニ ナルト ソレモ ヤンナイシデ
モールス。あれ してましたね。 私たちの ころに になると それも しないしで

ナギナタモ ヤンナガッタシ タダ アノ フユ ツカウ スミトカ マキトカオネ ヤマノ
長刀も しなかったし ただ あの 冬[に] 使う 炭とか 薪とかをね 山の

オクマデ ナンニモ ヤマノ オクマデ ショイニ イッタコト アリマス。
奥まで なんにも 山の 奥まで 背負いに 行ったこと[が] あります。

一:そういった生活に必要な薪とかの仕事というの、子供がやるものという感じだったんですか。

015A:エー ウチエ カエルト マズ タキモノオ ヒロツテ ソシテ イロリト フロト
ええ 家へ 帰ると まず 焚き物を 拾って そして 囲炉裏と 風呂と

ソレカラ ゴハン タクノト ミッツ アルモンダカラ イッパイ ヒロワナキャ
それから ご飯[を] 炊くのと みつつ あるんだから いっぱい 拾わなきゃ

ナンナインデスヨ マキオネ。 ソノヘン ズーット アルキマワッテ モー ムアジュー
ならないんですよ 薪をね。 その辺 ずっと 歩き回って もう 村中

マワッテ コーヤッテ ダカラ エダヤ ナンカ オチテンデスヨ。 ソレオ ヒロツテ
まわって こうやって だから 枝や なにか 落ちているんですよ。 それを 拾って

クンデス。 ソレカラ コンド ヤマオ クダッテ カチクノ クサオ カリニ イク
くるんです。 それから 今度 山を 下って 家畜の 草を 刈りに いく

カゴ ショッテ。シタニ クダルト センロガ アッテ デンシャ トーッテマシタ。
籠[を] 背負って。下に 下ると 線路が あって 電車[が] 通っていました。

ソノワキ フツーノ クサワ オソクナンナイト デナインデスヨ。ノハラダカラ
その脇[の] 普通の 草は 遅くならないと 出ないんですよ。野原だから

ハラッパダカラ イッパイ アンダケドモ ドーロノ ワキトカ センロノ ワキトカニ
原っぱだから いっぱい あるんだけど 道路の 脇とか 線路の 脇とかに

デル クサワ ハヤインデスヨ。デ ヤマオ クダッテ ソシテ イキマシタ。
出る 草は 早いんですよ。それで 山を 下って そして 行きました。

クラグナルコロ カエッテ クンデスヨ。 ソシテ ツカマルト ソノキガ ポキット
暗くなるころ[に] 帰って くるんですよ。そして つかまると その木が ぼきっと

オレッチャウンデスヨ。 ソースット コロビソーニ ナツテ ワーッ コノー ナンテ
折れてしまうんですよ。 そうすると 転びそうに なって わあっ この なんて

モンク イーナガラ キオ ナゲルンデスヨ。 ナゲタ キオネ マタ アラタニ アー
文句[を] 言いながら 木を 捨てるんですよ。 捨てた 木をね また 新たに ああ

コレオ モッテ カエレバ イッペン ゴハングライ タケルナツテ マタ ヒロツテ
これを持って 帰れば 1度 ご飯ぐらい 炊けるなって また 拾って

モツンデスヨ。 ウシロニワ カゴオ ショツテンデス。 ソンナゴトシテ マイニチ
持つんですよ。 後ろには 籠を 背負っているんです。 そんなこと[を]して 毎日

ヤッテマシタ。 ソレガ ニッカミタイニ。 ウン。
やっていました。 それが 日課みたいに。 うん。

(長沼哲平)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡檜葉町 —

[収録場所] 話者ご自宅

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性)

[調査者] 本多真史, 人見はるか, 徳田祐奈, 長沼哲平

001A: トガイ バッカリデ ナインダヨネ。コンナ イナガデモ ナラハマジデ ミナミチク
都会 ばかりで[は] ないんだよね。こんな 田舎でも 檜葉町で 南地区

アダシワ ミナミチクデ ウマレダンダゲド バグダンモ オドサレダシ
私は 南地区で 生まれたんだけど 爆弾も 落とされたし

キジューソウシャニモ アッタシネ バグダンノ アド イヤ イマワ ナイガナ。
機銃掃射にも あったしね 爆弾の 跡 いや 今は ないかな。

一: 木戸駅のところにありましたよね。

002A: エキノ アッタンダヨネ。キドノ エキントゴモ アッタシ アド イワサーントコ
駅の あったんだよね。木戸の 駅のところも あったし あと 岩沢のところ

トンネルガ ミッツ コゴニ アッタンデスヨ。ホッタラ ソゴニ キヤクシャガ ハイルッテ
トンネルが みつつ ここに あったんですよ。そしたら そこに 客車が 入るって

ユード アノー デン・・・ デンシャデワナイ キシャダネ キシャガ ハイッタドゴニ
いうと あのう 電・・・ 電車ではない 汽車だね 汽車が 入ったところに

キジューソーシャ カゲンデス。 ソレオ アノ バグダンモ オドサレンノモ
機銃掃射[を] かけるんです。 それを あの 爆弾も 落とされるのも

ミダシ。 デ チョード ウジ アダシノ ジッカノ ドゴガ ソラガ アッテ
見たし。 それで ちょうど 家 私の 実家の ところが 空が あって

ヒロノサ イグドゴ ソゴニ アノ ビーニジュークデワ ナイド オモーンダケドネ
広野へ 行くところ そこに あの B29 では ないと 思うんだけどね

セントーキナンダベネ。 アノ コノカイガンサ イデ シタジ シタジアダリガ アノ
戦闘機なんだろうね。 あの この海岸に いて 日立 日立あたりが あの

カンポーシャゲギ ウゲダ ソノアドナンデスヨ。 ソシテ モー ウジ ウジノホーモ
艦砲射撃[を] 受けた その後なんですよ。 そして もう 家 家の方も

ホノ カンポーシャゲギガ コゴノ アレサワ アノ アメリカノ センカンガ キテデ
その 艦砲射撃が この あれには あの アメリカの 戦艦が 来ていて

ソッカラ アノ シコーキガ トビタツテキテ カンポーシャゲギニ ヤラレルガラ
そこから あの 飛行機が 飛び立ってきて 艦砲射撃に やられるから

ソレガ シチガツコロダヨネ シューセンシル シチガツコロダッタトオモウ。
それが 7月ごろだよね 終戦する 7月ごろだったと思う。

ミンナ アレシテ ウジ ウジノ ジッカノ アレワ ヤマ ショッテダガラネ
みんな あれして 家 家の 実家の あれは 山[を] 背にしていたからね

ソノヤマノ ウラカワサ イヤンベニ クボミガ アツタンデスヨ。 ソゴサ ブラグノ
その山の 裏側に いい具合の 窪みが あったんですよ。そこに 部落の

ヒトラガ モー ミンナ クボミ ヒトドゴ ヒトドゴ コートツテ ナズダガラ
人たちが もう みんな 窪み ひとつ ひとつ こう取って 夏だから

カヤ モツテツテネ カヤオ キニ ヤツテ ソゴニ ネデダノ
蚊帳[を] 持って行ってね 蚊帳を 木に かけて そこに 寝ていたの

イッシューカンクレ。 デ アダシラ ワダシラワ ホレ ウジ ソゴマデ ングノニ
1週間ぐらい。 それで 私たち 私たちは ほら 家[は] そこまで 行くのに

スグ ナニガ アツタラバ ソノ ヤマノ カゲサ イガレルツテユー アレガ アツタガラ
すぐ なにか あったら その 山の 影に 行けるという あれが あったから

ウジデワ イガナガッタケド ミンナガ ヤツテッカラ アタシラモ アーユーネ
家では 行かなかったけれど みんなが しているから 私たちも ああいうね

ドゴサ イッテ ネダホーガ イーガナナンテ オモッテ。 ホシテ アルアサネ
ところへ 行って 寝たほうが いいかななんて 思って。 そうして ある朝ね

アノ チョード ウジノ チョーナンノ ヒトガ シロノエギサ デデダンデス ソンドギ。
あの ちょうど 家の 長男が 広野駅に 出ていたんです そのとき。

ホシテ エギワ アノー イッパグ ヨルネ トーシデ アシタ アゲデクルッテ。
そうして 駅は あの 1泊 夜ね 通しで 翌日 開けてくるって。

ホシテ アサワ アノ エギマデ ベントー トドゲデ アノ ウンテンシサンニ
そうして 朝は あの 駅まで 弁当[を] 届けて あの 運転手さんに

モッテッテ モラッテ シロノエギサ モッテッテ モラーヨーナ カダジニ
持って行って もらって 広野駅に 持って行って もらうような 形に

ナッテダモンダガラ アタシモ ホレ コートーニネンダッタガラ アノ アダシガ
なっていたものだから 私も ほら 高等科2年生だったから あの 私が

ホノ ベントー モッテグ ワゲダッタノネ。ソシテ アノ ナツン ナルト ミンナ
その 弁当[を] 持っていく わけだったのね。そして あの 夏に なんと みんな

ムガシノ ヒトワ アサ クサカリドガ ナントガッテ アサ シゴド シルモンダガラ
昔の 人は 朝 草刈りとか なんとかって 朝 仕事[を] するものだから

ゴハンワ アレ コー アガリグジデ タベダンデスヨ アサ。ズダズダニ ナズクサ
ご飯は あれ こう 上り口で 食べたんですよ 朝。 ずたずたに 夏草[で]

ヨゴレッカラ ソノマンマ マダ シャクショー ヤルヒトワ ヤンナキャ ナンネッテ
汚れるから そのまま また 農作業[を] する人は しなければ ならないって

ユーノデ アガリクジデ タベテダ。ソゴデ タベテイダラバ シコーキガ キタンデスヨ。
いので 上り口で 食べていた。そこで 食べていたら 飛行機が 来たんですよ。

ロッキ ロッキ ゴキカナ。アリアリド イマデモ メニ アンノ。
6機 6機 5機かな。 ありありと 今でも 目に 映るの。

コゴニ サンキ コー ナランデ イッキ ニキド コー。ソシテ アー テギノ シコーキ
ここに 3機 こう 並んで 1機 2機と こう。そして ああ 敵の 飛行機[が]

キタッテ アダシ ミンナシテ カズグガ ミデ ソノウジニ メノマエデ バラバラニ
来たって 私 みんなで 家族が 見て そのうちに 目の前で ばらばらに

ナッタンデス シコーキガ。 ホシタラ イッキガ ズーット オチテッタノ
なったんです 飛行機が。 そうしたら 1機が ずうっと 落ちていったの

シロノノホーニ。 アー ヤラレッチマーワド Kガ Kッテ イッタモンダガラ
広野の方に。 ああ やられてしまうわと Kが [長男は]Kって いったものだから

ハハオヤガ Kガ ヤラレッチマーワ ホシテ ソノ シコーキガ バラバラニ
母親が Kが やられてしまうわ そして その 飛行機が ばらばらに

バラバラニ ナッタンデス ソノ メノマエデネ。 ソシタラ ヒロノノ トンネル
ばらばらに なったんです その 目の前でね。 そしたら 広野の トンネル[が]

アノ アッカラネ スエツギガラ ズット ソノ エギガラ コーシテ イッタ トンネルニ
あの あるからね 末続から ずっと その 駅から こうして 行った トンネルに

キヤクシャガ ハイッタンダッテ。 ソシテ キヤクシャ ハイッテ アノ ウンテンシサンワ
客車が 入ったんだって。 そして 客車[が] 入って あの 運転手さんは

カマオ キヤクシャノホーオ トンネルノ ナガニ タイキサセンノニ ウンテンシサンワ
窯を 客車の方を トンネルの 中に 待機させるのに 運転手さんは

トンネルガラ デダドゴサ トマッタワゲ。 ソンドギニ ウンテンシサンワ ヤラレデ
トンネルから 出たところに 止まったわけ。 そのときに 運転手さんは やられて

ナグナッタド オモーンダケドネ。 ソシタラ アノー オシルチカグニ ナッテ アニキガ
亡くなったと 思うんだけどね。 そしたら あの お昼近くに なって 兄が

カエッテキタラ イヤ キョーワ タイヘンダッタッテ。 アノー エギノネ
帰ってきたら いや 今日は 大変だったって[言っていた]。 あの 駅のね

スエツギノ エギデ コーユーゴドニ ナッテデ ソシテ オンナノ ヒトガ
末続の 駅で こういうこと なっていて そして 女の 人が

シャショー ヤッテダガラ オドゴワ ウンテンシワ オドゴダッタケドモ ホトンド
車掌[を] していたから 男は 運転手は 男だったけれども ほとんど

オンナデショー ヘータイニ ミンナ トラレデッテ アノー オドゴノ ヒトワ
女でしょう 兵隊に みんな 取られていって あの 男の 人は

イナインデスヨ ナニ ヤンニモ。 オンナバッカシダッタモンダガラ ソノ オンナノ
いないんですよ なに[を] するにも。 女ばかりだったものだから その 女の

シャショーサンガ ハダシデ アノー センロオ ハネデ エギマデ キテ バツタリ
車掌さんが 裸足で あの 線路を 走って 駅まで 来て ぼったり

タオレタンダッテ。 ソノ イマ ヤラレッチャッタガラッテ ソレユイニ。
倒れたんだって。 その 今 [汽車が]やられてしまったからって それ[を]言いに。

モー ヒサンダヨッテ アニキガ カエッテキテ ソーユーノオ ワダシワ オボエデンネ
もう 悲惨だよって 兄が 帰ってきて そういうのを 私は 覚えているね

ゼンインデネ。 ソノ アドダモノネ アノ コッチ タツタノホーノ トンネル
[家族]全員でね。 その 後だものね あの こっち 竜田の方の トンネル[を]

メガゲデ ジギ ウエノ アレデ アノ セントーキガ メンデス ヒトリ
めがけて すぐ 上の あれで あの 戦闘機が 見えるんです ひとり

ノッテンノナイ。 アノー ホシテ タマノ オリンノガ メーンノヨ ウジノ ウラガラ。
乗っているのね。 あの そうして 弾の 降りるのが 見えるのよ 家の 裏から。

ソーシット アノ イヤー オッカナクテ コンナドゴニ イラレナイナンテ ユード
そうすると あの いや 恐ろしくて こんなところに いられないなんて 言うと

ウジノ ハハオヤワ フトンオ シキブトンオ ミッツニ タダンデ アダマノ ウエサ
家の 母親は 布団を 敷布団を みつつに たたんで 頭の 上に

アゲデ イエノ ナガワ ウロウロ ウロウロ シテダ オボエ アンノ ワタシ。
あげて 家の 中を うろうろ うろうろ していた 覚え[が] あるの 私。

(門馬琢朗)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡檜葉町 —

[収録場所] 檜葉町まなび館

[話者] A(高年層男性), B(高年層女性)

[調査者] 半沢康, 門馬琢朗, 吉田美月

001B:イノシシノ カズワ トーゼンデスケド ワタシナンカ コドモタチ キタトキ シャベッテ
猪の 数は 当然ですけど 私なんか 子供たち[が] 来たとき 話して

ワラウンデスケド ワタシ デンセンノ ナカニ カコワレテ イマ クラシテマス ゼンブ。
笑うんですけど 私[は] 電線の 中に 囲われて 今 暮らしています 全部。

ワタシガ イエノ アノ サクノ ナカデ クラシテ イノシシ ハナシガイデスヨ。
私が 家の あの 柵の 中で 暮らして 猪[が] 放し飼いですよ。

002A:ソレ ギャグダドナ フツーナ。
それ 逆だよな 普通な。

003B:ダッテ ソーシナイト イエノナカ ゼンブ ヤラレチャウカラ オカネ カケテ
だって そうしないと 家の中[が] 全部 [猪に]やられてしまうから お金[を] かけて

ニヒャクメートル ゼンブ デンセン ハッテ ワタシ ソノナカニ トーアゲデ
200メートル 全部 電線[を] 張って 私[が] その中に 戸を開けて

ハイッテイギマス。 キョネン ホーセーダイノ コンド アシタ クル コタチ
入っていきます。 去年 法政大の 今度 明日 来る 子たち[が]

ナニガ テツダウヨッツッテ ソトワクオ マタ アミデ カコッテクレテ タマーニ
なにか 手伝うよって言って 外枠を また 網で 囲ってくれて たまに

デンワ ヨゴシテ イノシシ ハイッテ キマセンカ ボクタチ ツクッタ
電話[を] くれて 猪[が] 入って きませんか 僕たち[が] 作った

サクカラトカッテ。 ヤッパリネ ホントニ ソーユー タイサク シナイト ヤサイワ
柵からとかって。 やっぱりね 本当に そういう 対策[を] しないと 野菜は

モチロンノコト コワクテ イラレナイデスネ。
もちろんのこと 怖くて いられないですね。

004A:スゴイモノ。キョネンナンカ タンボ タンボ ウナッテダノナ。 ホースット ドーロノ
すごいもの。去年なんか 田んぼ 田んぼ[を] 耕していたのな。 そうすると 道路の

ワギニ ハヤシアル。 ソゴニ ドングリガ オジル。ウン。ホシタラ ドーロニ ドングリ
わきに 林ある。 そこに どんぐりが 落ちる。うん。そしたら 道路に どんぐり[が]

オチテルヨナ。 ヒルマ イノシシ キテ ドングリクイ ヤッテンダヨ。
落ちているよな。 昼間 猪[が] 来て どんぐりを食べているんだよ。

005B:ヤコーセーッテ キグゲド チガウンデスカ。
夜行性って 聞くけれど 違うんですか。

006A:チガー チガー。
違う 違う。

007B:ソー。
そう。

008A:アレ ウシロ ミデ イネナード オモッタラ ズグ ウシロ ミダラバ トラクター
あれ 後ろ 見て いないなと 思ったら すぐ 後ろ 見たら トラクター[で]

ウナッテル ウシロ クツツイデ クンデネーガ イノシシ。
耕している 後ろ くつついて くるじゃないか 猪[が]。

009B:コワガラナイ。 ダッテ ヒトザトデ ウマレテルカラ モー ヒトモ
怖がらない。 だって 人里で 生まれているから もう 人も

キョーセーシテルンデスヨネ。 カレ ウマレタ カレタチニ トッテワ イデ アタリマエ。
共生しているんですよね。 彼 生まれた 彼らに とっては いて 当たり前。

010A:タジドマッテ シヤシン トッチャッタヨ。 ハハハ。
立ち止まって 写真[を] 撮ってしまったよ。 ハハハ。

011B:ホントネ アトカラ ウリボー ツレテ キョロット キョロット ミルカラ。
ほんとな あとから うり坊[を]連れて きょろっと きょろっと 見るから。

一:なるほど。

012A:ムカシワネ ヒトノ スガタ ミタラ バーツ ニゲテタケド ニゲナイ。
昔はね 人の 姿[を] 見たら バーツと 逃げていたけれど [今は]逃げない。

一:本当に大変なね。なかなかお家直すにも、大工さんの手も足りなくて、直すのも大変だなんていうのもよく聞きますけれどね。

013B:ワタシワ ソレオ ヨソーシテ モノスゴク ハヤグ モー テハイシテ。
私は それを 予想して ものすごく 早く もう 手配して。

一:なるほど。

014A:ダイクサマ イナクテナ。
大工さま[が] いなくてな。

一:どこでも順番待ちだ、なんていうのはね。

015B:イマネ ミンナ コノサンガツデ カリアゲジュータグ カセズ オワルノデ。
今ね みんな この3月で 借り上げ住宅 仮設[が] 終わるので。

一:ああ、そうですね。

016B:ミンナ キューピッチノ ホシューガ ハイッテマスネ。
みんな 急ピッチの 補修が 入っていますね。

017A:オモセガッタワイ。 ダイクサマニ ドーシタイ ナンテ イヤー ダイグ イナクテヨー
面白かったよ。 大工さんに どうしたの なんて いやあ 大工[が] いなくてよ

ナンテ。ウン。 ダイログ ダイシチワ インダ ナンテ。ソーガイ ナンテ。ハハハ。
なんて。うん。 大六 大七は いるんだ なんて。そうかい なんて。ははは。

018B:ホントニ モー オレ シンダッテ シゴト デギナイツツッテ。
ほんとに もう 俺[が] 死んだって 仕事[が] できないって言って。

019A:ゼンゼン ワガッテナイ ミデナ ハナシダ。 ワガッタベ? ダイシチ
全然 わかっていない みたいな 話だ。 わかったでしょ? 大七

ダイシチッテ サゲ アッペシタ。ウン。デモ ダイク ダイクナ ダイクワ ダイニ
大七って 酒[が] あるでしょ。うん。でも 大工 大工な 大工は 大に

コーギョーノ コー カグゲド ホノ ゲンニ デキテル ダイクサマガ
工業の 工[を] 書くけれど その 現に [仕事]が]できている 大工さんが

ダイクサマガ ウデノイー ダイクサマガ コンド ヒトリデワ デギネーガラ
大工さんが 腕のいい 大工さんが 今度 ひとりでは [仕事]ができないから

イロイロ テズダッテ モラワナッカ ナンネナ。 ホガノ ダイクサマニ。
いろいろ 手伝って もらわなければ ならないな。 他の 大工さんに。

ウン。ホーシット チャント デギネノヨ ホンライノ ダイグノ シゴド。
うん。そうすると ちゃんと できないんだよ 本来の 大工の 仕事。

ブツツゲ シゴドワ デキッカラ。 ソレ モジッテ ダイログ ズット・・・。
ぶっつけ 仕事は できるから。 それ[を] もじって 大六 ずっと・・・。

020B:ダメデショー ワカンナイデショー。
駄目でしょう わからないでしょう。

一:そういう説明されちゃ駄目なんです。

021A:へんな・・・ イマワネ。
変な・・・ 今はね。

022B:デモ ナンテユーンデスカ ソノ ヒナンセーカツモ ワタシ イマ オモーケド
でも なんていうんですか その 避難生活も 私[は] 今 思うけれど

イーベンキョーニ ナリマシタ。
いい勉強に になりました。

023A:ヨク カンガエルドナ。
よく 考えるとな。

024B:ネッ。 イロンナ モー コノヒナンガ ナカッタラ ナレナカッタ オトモダチモ タクサン
ね。 いろんな もう この避難が なかったら なれなかった お友達も たくさん

コーサイモ デキタシ トーキョーノ ナンテユートコロネ カナガワケンノ ソレコソ
交際も できたし 東京の なんていうところね 神奈川県の それこそ

ナンデ Bサン ヒナンガ ショーナンナノ? イチダイカンコーチニ ナンテ
なんで Bさん[は] 避難[先]が 湘南なの? 一大観光地に なんて

イワレルグライ ソーユウ トコロデ イチネン クラスコトモ デキタシ マー アンマリ
言われるぐらい そういう ところで 1年 暮らすことも できたし まあ あんまり

トカイニ デタコト ナイノニ トーキョーエキオ スムーズニ ノリカエ デキルヨーニ
都会に 出たこと ないのに 東京駅を スムーズに 乗り換え できるように

ナツタリ ヤッパリ ソーユウ アノ イロンナ ガクシューモ デキタシ ステキナ
なったり やっぱり そういう あの いろんな 学習も できたし 素敵な

ジカンダッタナッテワ オモイマスネ。
時間だったなどは 思いますね。

一:前向きな。

025A:マエムギナ。
前向きな。

026B:ホントニ ソーオモイ。
ほんとに そう思う。

一:Aさんはどちらに避難されたんですか。

027A:オレワネ サイショ ヒロノノ オンツァ ソノツギ アノ クサノショーガッコー・・・
俺はね 最初 広野の 叔父[のところ] その次 あの 草野小学校・・・

クサノチューガクダ。
草野中学だ。

一:草野? はいはい。

028B:チューガッコー。

中学校。

029A:クサノチューガッコー。 ニネンニクミダッタノ キョーシツガナ。 アソゴニ フタバ
草野中学校。 2年2組だったの 教室がな。 あそこに 2晩

イダノガ。フタバニイデ ツギガ アネノウジニ イバラギニ イッテ ホノツギ
いたのか。2晩いて 次が 姉の家に 茨城に 行って その次

ムスメンドゴニ イッテ ソゴガラ コンド コル シゴドノ カンケーデ コーリヤマニ
娘のところに 行って そこから 今度 仕事の 関係で 郡山に

キテ ウン コーリヤマノ コーリヤマコーコータイクカンカ コーコーノ タイクカン。
来て うん 郡山の 郡山高校体育館か 高校の 体育館。

タイクカンガ コンド コドモラ ツカーッテ ユーゴドデ コンド コーリヤマノ
体育館が 今度は 子供たち[が] 使うと いうことで 今度[は] 郡山の

セーショーネンカイカンニ。 オーツキダツケガ ムゴーノホーニ アルンダヨネ
青少年会館に[行った]。 大槻だったかな 向こうのほうに あるんだよね

ソゴデ セワンナッテ ソレガラ コンド フクシマ イッテ。
そこで 世話になって それから 今度[は] 福島[に] 行って。

030B:トニカク ハチカイ キューカイワ ザラナンデスネ。

とにかく 8回 9回[の移動]は ざらなんですね。

(安田知夏)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡檜葉町 —

[収録場所] 檜葉町まなび館

[話者] A(高年層女性)

[調査者] 武田拓, 二階堂千紘, 白瀬希, 小泉明日春, 安田知夏

001A:ジッケンツテユーカネ アノ ジャガイモオネ アノー ソーコニイグド イッパイ アルカラ
実験といふかね あの ジャが芋をね あの 倉庫に行くと いっぱい あるから

カタクリコオ ツクルツツツテ エー ドーヤツテ ツクンノナンツツテ イマノ コドモワ
片栗粉を 作るっていつて ええ どうやって 作るのなんていつて 今の 子供は

キット ワガンナイカト オモーケドスケド ジャガイモオ スツテ デ ソレ シルオ
きっと わからないかと 思うんですけど ジャが芋を 播って それで それ[の] 汁を

シボツテ ソシテ ボールニ コー シルオ サーツ アレシテ ホシテ オイタラ
絞って そして ボールに こう 汁を さっと あれして 干して おいたら

カタクリコガ デキタトカネ ソンナコト イマノワ リカノ ベンキョーダツテ キット
片栗粉が できたとかね そんなこと 今のは 理科の 勉強だつて きっと

ヤンナイト オモーケド ワタシラ アソビノ ナカニ ソーユーノガ ハイッテイタネー。
しないと 思うけれど 私たち[は] 遊びの 中に そういふのが 入っていたね。

一:あと、自然になつてゐる無花果とかぐみとか取って食べたりしましたか。

002A:アー。ヤシキニ イチジクトカ ソーユーノ キガ アリマシタカラ モー ソレオ ノボツテ
ああ。屋敷に 無花果とか そういふの 木が ありましたから もう それを 登って

トツテ オヤニ ナンテ ユーンデショーカ ウエタヨツツツテ ギャクニ コドモナノニ
とつて 親に なんて いうんでしょうか 植えたよつていつて 逆に 子供なのに

キノボリッテ ヘダナンデスケド コー キオ タメテ コー トッタリ ソレオ
木登りって 下手なんですけれど こう 木を 矯めて こう 取ったり それを

ナンテ ユーンデショーカ タベルバッカリニ ホーチョーデ ムイデ ヤッタリシテ
なんて いうんでしょうか 食べるばかりに 包丁で むいて やったりして

オヤツデース ナンテ ヤッテネ。 ギャクニ オヤガ イソガシガッタリスルト ジブンデ
おやつです なんて やってね。 逆に 親が 忙しかったりすると 自分で

ソーユーノ ツクッテ ダシタリネ ソーユーノガ コー ホメラレタリスツト
そういうの 作って 出したりね そういうのが こう 褒められたりすると

トグイニ ナッチャッテ アレワ ワタシノホーガ デギンダトカ セーニネ アノー
得意に なってしまって あれは 私の方が できるんだとか それにね あの

シミモチトカ ソーユーノモ ムガシワ ツクリマシタモンネー。 イマワ ソーユーノ
凍み餅とか そういうのも 昔は 作りましたもんね。 今は そういうの

ツクル モチオ マー ユキグニノホーデワ ヤッテンノガモ シレナイケド ンダネー
作る 餅を まあ 雪国の方では やっているのかも しれないけれど そうだね

シミモチオ アノー モドシテ ヤグッテ ユーコトガ イマワ ワガンナインジャナイガナー。
凍み餅を あの 戻して 焼くって いうことが 今は わからないんじゃないかなあ。

ソレガ ジョーズダッタンデスヨ。 エー。ソレモネ ナンニジガ マエニ ソンナ
それが 上手だったんですよ。 ええ。それもね 何日か 前に そんな

オモイダシテ ソンナ ハナシ シタバッカリダッタンダケド。 モー ガッコーカラ
思い出して そんな 話[を] したばかりだったんだけど。 もう 学校から

カエッテクルト アテニ サレテマシタカラ。 ドコドコニ シミモチ ウルカシテ
帰ってくると あてに されてましたから。 どこどこに 凍み餅[を] 水につけてふやかして

オイタカラ。 ウルガスッテ ユーンダヨ ツケテオクッテ ユーゴドネ。
おいたから。 ウルガスって 言うんだよ つけておくって いうことね。

ウルガシテ オイタラ アノー オヤツニ モッテキテトガ ソシテ ソレオ
水につけてふやかして おいたら あの おやつに 持ってきてとか そして それを

イカニ コガサナイデ ジョーズニ ヤクカッテ ユーノガ マダ ウデノ ミセドコロデ
いかに 焦がさないで 上手に 焼くかって いうのが また 腕の 見せどころで

ハハワ コーシテ ヤッテダケド ワタシモ デキマス ミタイニ トクインナッテ
母は こうして していたけれど 私も できます みたいに 得意になって

モッテイクノガ ホメラレタッテ ヨロコンダネ。 イマ ソーユー オテツダイツテ
持っていくのが 褒められたって 喜んだね。 今 そういう お手伝いって

マッタク シナイデショー ダイタイ。アノー ノーカノ コドモダジダツテネ
全く しないでしょ だいたい。あの 農家の 子供たちだってね

レーザーコニ アケレバ イッパイ タベモノガ ハイッテテ ソーユー モノノ
冷蔵庫に 開ければ いっぱい 食べ物が 入っていて そういう ものの

ナイ ジダイニ ソダッタカラネ。 オヤモ ナントシテモ ナンカ ショクノ ツナギオ
ない 時代に 育ったからね。 親も なんとかしても なんか 食の つなぎを

スルタメニ ソーユーノオ ヤッタモンダヨ。 ウン。イマワ レーザーコ アケテ アイス
するために そういうのを したもんだよ。 うん。今は 冷蔵庫[を] 開けて アイス[を]

タベタリネ パンオ タベタリ ソーユーノガ モー ソレダツテ イロイロ チーズオ
食べたりね パンを 食べたり そういうのが もう それだって いろいろ チーズを

ノッケテトカ ショクパンニ ナニカオ ノッケテ ソレニ ジャムオ ヌッテ ナンテ
のせてとか 食パンに なにかを のせて それに ジャムを 塗って なんて

イマノ シトワ ソーユー タベカタダケド ワタシラントギワ イマ ユッタヨーニ
今の 人は そういう 食べ方だけれど 私たちのころは 今 言ったように

シミモチニ オサトー ツケテ アブラデ ヨワビデ ヤイテ ホシテ フワット
凍み餅に お砂糖[を] つけて 油で 弱火で 焼いて そして ふわっと

ナッタノニ ソレオ モッテイクト イヤ ジョーズニ ヤゲダゴド ナンテ ホメラレテ
なったのに それを 持っていくと いや 上手に 焼けたこと なんて 褒められて

オマツリントギ オダチン スコシ ヨゲーニ モラッタリシテネ。 ソンナコトグライダネ。
お祭りのとき お駄賃 少し 多く もらったりしてね。 そんなことぐらいだね。

アト アノジダイダト イロンナ アノ チョット ネンダイガ チガーガラ ソーゾーモ
あと あの時代だと いろんな あの ちょっと 年代が 違うから 想像も

ツカナイデショーケド イマ トキドキ オモーンデス。 スーパーデ サツマイモナンカ
つかないでしょうけれど 今 時々 思うんです。 スーパーで さつま芋など[を]

ミルト ナマノ サツマイモ タベタコド アルンデス。 ソレ ナマデ
見ると 生の さつま芋[を] 食べたこと[が] あるんです。 それ 生で

タベラレルモンダト オモッテタネ。 ニテモ タベンダケド ナマデモ
食べられるものだと 思っていたね。 煮ても 食べたんだけど 生でも

タベラレルモンダト オモッテタケド イマ カンガエルト アラ タイヘンナコド
食べられるものだと 思っていたけれど 今 考えると あら 大変なこと[を]

シテタンダワネード オモッテ。 デ ナマノ サツマイモッテワ アノ シブガ
していたんだわねと 思っ。 それで 生の さつま芋っていうのは あの 渋が

アルカラ ソレオ トクイニナッテ タベテルト コノヘンガネ コワレテクンデス。
あるから それを 得意になって 食べていると この辺がね 壊れてくるんです。

ダカラ ワタシラノ ネンダイワ イロンナコト ヤッタネー。 ダカラ アノー ガッコーデ
だから 私たちの 年代は いろんなこと したね。 だから あの 学校で

コクバンナンカニモ チューイジコー ドリョクジコートカ チューイジコーツテ
黒板なんかにも 注意事項 努力事項とか 注意事項って

コー カイテアッタデスネ。 ナマウメオ タベナイナンテ ユーノワ アノ ツユノ
こう 書いてあったんですね。 生梅を 食べないなんて いうのは あの 梅雨の

ジキニ ナルトネ ソンナコト カイテ アンノワネ センセー ヤッパリ ナマウメワ
時期に なるよね そんなこと[が] 書いて あるのはね 先生[が] やっぱり 生梅は

タベナイヨーニ カラダニ ヨクナイガラナンテ ドクソオ モッテルカラ ドーダヨ
食べないように 身体に よくないからなんて 毒素を 持っているから どうだよ

ナンテユークト イッテタンデショーネ。 ソノグライ ブッシノ ナイ ジダイワ
なんていうこと[を] 言っていたんでしょうね。 それくらい 物資の ない 時代は

ニジューサンネンウマレダカラ モー センゴネ ソノ マーダネ ダカラ モノガナイ
[昭和]23年生まれだから もう 戦後ね その まだね だから 物がない

ジダイダカラ サツマイモドガ ナマデ タベンノウ ソンナニ フシゼンナコトデワ
時代だから さつまいもとか 生で 食べるのは そんなに 不自然なことでは

ナカッタンデスネ。 フフフ。イマノ ダカラ アノ ヒトタチワ イマノ
なかったんですね。 ふふふ。今の だから あの 人たちは 今の

ガクセーサンナンカワ エー ソーユーノモ シタンデスカ ナンテ。 カワデ ニンジンオ
学生さんなんかは ええ そういうことも したんですか なんて。 川で 人参を

アラッテネ ナマデ タベテ。 カンガエデミルト イマ アノ サラダニ センギリニシテ
洗ってね 生で 食べて。 考えてみると 今 あの サラダに 千切りにして

ダシタリトカネ スルトキモ アリマスヨネ ホソク。 ナマデ タベレナイコトワ
出したりとかね するときも ありますよね 細く。 生で 食べられないことは

ナインダケド ナマデ ガリガリナンテ タベマシタモンネ ウサギミタイニネ。ウマダネ。
ないんだけど 生で ガリガリなんて 食べましたもんね うさぎみたいにね。馬だね。

(横山史夏)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡檜葉町 —

[収録場所] 話者ご自宅

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性), C(高年層女性)

[調査者] 小林初夫, 大橋ひとみ, 棚木大智, 吉田美月

一:結構, 空襲もあつたんですか。

001B:クーシューワ・・・

空襲は・・・

002C:クーシュー アッタヨ。

空襲[は] あつたよ。

003B:キドノ エギマエニ オッコッタ ナンテワ キーダゴド アルヨネ。

木戸の 駅前に [爆弾が]落ちた なんては 聞いたこと[が] あるよね。

004A:ンデモ コノヘンワ コーバダドガ ソーユーノガ ナイガラ。

でも この辺は 工場とか そうというのが ないから。

005C:ナラハダッテ キドノ エギノ チカグニ オチタリ ヨルン ナット

檜葉だって 木戸の 駅の 近くに 落ちたり 夜に なるよ

ビーニジュークナンテネ ウーン。イヤー コーリヤマノ・・・

B29 なんてね ううん。いや 郡山の・・・

006A:エキトカ ソーユードゴネ ネラッタガラ。ンダガラ コノヘンデワ ハラマチアタリニ

駅とか そういふところね 狙ったから。 だから この辺では 原町辺りに

ビーニジューク キテ ウチカラ ミデット グーット バーント アガッテ ホシテ

B29[が] 来て 家から 見ていると グーっと バーンと 上がって そして

アト コーリヤマニ ムガイマシタネ。
あと 郡山に 向かいましたね。

007C:コーリヤマニ ムガッタノ？
郡山に 向かったの？

008A:ソー。ハラマチニワ ヒコージョー アリマシタカラ イマノ ゲンパズン トゴニ。
そう。原町には 飛行場[が] ありましたから 今の 原発の ところに。

009C:マーマー ドッチガ タイヘンダッタんだガ センソード ハハハ。
まあまあ どっちが 大変だったのか 戦争と ははは。

010A:センサーワネ コノヘンワ ソノホドデ ナガッタガラ ヒナンスル ナンテユーゴドワネ
戦争はね この辺は それほどで[は] なかったから 避難する なんていうことはね
ナガッタケド。
なかったけれど。

011C:ナガッタгентモ。
なかったけれども。

012A:コンドワ ロクネンモ イダモンネ。
今度は 6年も いたものね。

013C:センサーモ タイヘンダッタヨー。ウン。ミンナ。
戦争も 大変だったよ。 うん。みんな。

014A:ヒナダナンテ テレビデ ミテテ イヤイヤ タイヘンダナーナンテ ユッテルウジ
避難だなんて テレビで 見ている いやいや 大変だなんて 言っているうち[に]

ジブンタチモ ヒナンスルヨーニ ナッタラ ロクネンモ カエレネノ タイヘンダッタ。
自分たちも 避難するように なったら 6年も 帰れないの 大変だった。

ウチモ ナンニモ ニワモ ナンニモ ウエキナンテ モー コノクライノ マツノキナンテ
家も なんにも 庭も なんにも 植木なんて もう このくらいの 松の木なんて

モー コンナニ ナッテ イダッケ。 ネー。テイレシッタノガ ハ モー マツ
もう こんなに なって いたなあ。 ねえ。手入れしていたのが もう 松

マツノキニ ナッチャッタ。
松の木に なってしまった。

一:避難して、一番最初帰ってきたというか戻ってきたのはいつですか。一時帰宅ですか。

015A:イチジキタクワ アイズニ イットキ ダガラ。
一時帰宅は 会津に いるとき だから。

016B:アー キタ？
ああ 来た？

017A:キタドギ アンダ アイズガラ。
来たこと あるんだ 会津から。

018C:イジジキタク。
一時帰宅。

019A:ニネンクライ スギテカラカナ。
2年ぐらい 過ぎてからかな。

一:そのときも、でも一時帰宅ですから、ある程度の時間限られていてですね。時間たったらすぐ行かなくちゃいけない。そのときにやっぱりお家のあれとかいろいろ変わり果てていましたか。

020A:ソーデスネー。 イノシシ オニワノヘン ホリツクシテ イダシ。タダ ホノ
そうですね。 猪[が] お庭の辺り[を] 掘り尽くして いたし。ただ その

ウチン ナカニモ ネズミワ イマシタケド イノシシトカ ソーユーノワ ウチニワ
家の 中にも ねずみは いましたけれど 猪とか そういうのは 家には

ハインナガッタ。
入らなかった。

一:中には入らなかったですか。

021A:ハイ。ワリト ガッチリ シテダガラ イシガギ クズレチャッテ スコシ。 ウチワ
はい。わりと ガッチリ していたから 石垣[が] 崩れてしまって 少し。 家は

タオレ タオレルマデワ イカナイケド マガッタモンデスカラ カギ カガンナイ
倒れ 倒れるまでは いかないけれど 曲がったものですから 鍵[が] かからない

ドゴガ アツタンデス ヤッパリ。ドアガ ウゴガナイ。 デモ ドロボーワ
ところが あったんです やっぱり。ドアが 動かない。 でも 泥棒は

ハインナガッタナ ウチニワ。
入らなかったな 家には。

一:じゃ、よかったですね。Bさんのお宅はどうでしたか。なにか変わり果てていました?一時帰宅で来たときに。

022B:イチジキタクデ キタトキワ ウチワ コドモ イタカラ コナカツタンデス。
一時帰宅で 来たときは 家は 子供[が]いたから 来なかったんです。

一:あ、一時帰宅しなかったんですか。

023B:ダンナトカ ムスメタチワ キテ ソシテ イロイロ ヨーナノ モツテッテ
旦那とか 娘たちは 来て そして いろいろ 必要なもの[を]持って行って

モラツタンデスケド アド ダンダンワ ハー モツテキテ ダメダナンテ ユワレテ
もらったんですけれど あと だんだんは もう 持ってきて[は]駄目だなんて 言われて

コメトカ ナンカワ クラニ ハイッテダノ ウジノ ダンナガ ソドニ ダシテツタラ
米とか なにかは 蔵に 入っていたの[を]家の 旦那が 外に 出していったら

チャント キレーニ イノシシガ タベデダッテユー アレガ アンダヨネ。 コメモ
ちゃんと きれいに 猪が 食べていたっていう あれが あるんだよね。 米も

ナンニモ ハー モツテ イガナガッタガラネ。 ダメダナンテ ユワレデ。
なんにも もう 持って いかなかったからね。 駄目だなんて 言われて。

024C:ソーダヨネ。
そうだよ。

025B:ウン。ミソモ ナンニモ ソノママダッタシ。
うん。味噌も なんにも そのままだったし。

一:食べ物は持ち出しては駄目なんですね。

026B:ウン ソー。
うん そう。

027A:タベモノワ ゼンゼン ダメダッタネ。
食べ物は 全然 駄目だったね。

028B:ダガラ ゼンブ ステッチャッタノネ フグデモ ナンデモ ミンナ アレデ。
だから 全部 捨ててしまったのね 服でも なんでも みんな あれで。

029C:ソーソー。
そうそう。

一:Cさんは同じですか。

030C:イジジキタグ ウン。ヒロノノ コーミンカンデ イロイロ ボーシガラ ウエサ
一時帰宅 うん。広野の 公民館で いろいろ 帽子から 上に

キンノガラ クズガラ シロイノ ホシテ イジジキタグ ウジノ ガラガラニ
着るものから 靴から 白いの そして 一時帰宅 家の[中は] ガラガラに

ナツテマシタ。 ウン。ソーシテ コンド コメナント ホレ ヤッパリ モツテ
なっていました。 うん。そうして 今度 米など[は] ほら やっぱり 持って

クラニ アッタガラ モツテイグ。ソーシット シラベラレンダヨ。
蔵に あったから 持っていく。そうすると 調べられるんだよ。

031B:トジューデネ。
途中でね。

032C:ウン。トジューノ ヒロノノ コーミンカンデ イジジ ミンナ ナニ モツテキタガ
うん。途中の 広野の 公民館で 一時 みんな なに[を] 持ってきたか

ナンテ シラベテ。
なんて 調べて。

033B:ソレ ヤダクテ モツテ イガナガッタノ ンダガラ。
それ[が] 嫌で 持って いかなかったの だから。

034C:ンダガラ モツテッタッテ アノ オイデッテ クダサイ ナンテ タベデ ダメダ
だから 持っていったって あの 置いていって ください なんて 食べて[は] 駄目だ

ナンテ コメ ウン オイデッタ。
なんて 米[を] うん 置いていった。

035B: トジューデ シラベラッチャンダ ホントニ。 コノ アシノ ソゴトガ カラダ
途中で 調べられたんだ 本当に。 この 足の 底とか からだ[とか]

ミンナネ。 キタドギワ ンダガラ。 ウジンナガワ ネズミドガ ヘビナンカワ キーデダヨ
みんなね。 来たときは だから。 家の中は ねずみとか 蛇などは 効いていたよ

アノ ネズミトリニ。
あの ねずみ捕り[の薬]に。

一: ああ。

036B: アオダイショー。
青大将。

037A: アー ソー？
ああ そう？

038B: ネズミモ キーデ イヤー キモジワリガッタネ。
ねずみも [薬が]効いて いや 気持ち悪かったね。

039A: クラン ナガデ？
蔵の 中で？

040B: ヘヤン ナガデ。 アオダイショー カワイソーダッタゲド ウン。 ネズミ オッカゲデ
部屋の 中で。 青大将[は] かわいそうだったけれど うん。 ねずみ[を] 追いかけて

キタンダガ ナンダガネ。
きたのか なんだからね。

041A: ソーデショー。
そうでしょう。

042B: ウン。 イロイロ ハー ダンダン ワスレッチマーネ。 ハハハ。
うん。 いろいろ もう だんだん 忘れてしまうね。 ははは。

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡檜葉町 —

[収録場所] 檜葉町まなび館

[話者] A(高年層男性), B(高年層女性)

[調査者] 武田拓, 安田知夏, 横山史夏

—:子供のころ、どんな遊びされてました？今とだいぶ違うと思うんですけど、例えば、竹とか木とか自然のものを使ってものをつくったり、もので遊んだり、どんなことをされてました？

001A:コドモ ソノモノ デスカ。
子供 そのもの ですか。

—:小さいころに。

002A:アー。 アタシノ バアイワ アレデスネ タケトンボダトカ タケウマナド ツクッタリネ。
ああ。 私の 場合は あれですね 竹とんぼとか 竹馬など[を] 作ったりね。

003B:ササブネナンカモ ヨグ ツクッタネ。
笹船なども よく 作ったね。

004A:ヒカクテキ ショーガッコノコロワネ ナンツーンダロー サガナノ サガナトリニ
比較的 小学校のころはね なんていうんだらう 魚の 魚とりに

ムチューニ ナリマシテネ。
夢中に なりましてね。

005B:キドガワ イッターリ。
木戸川[へ] 行ったり。

006A:モー センパイガ センパイガ ホレ サガナトリオ オシーテ クレタモンデスカラ
もう 先輩が 先輩が ほら 魚とりを 教えて くれたものですから

モー ソレニ ムチューナンデスヨネ ショーガッコー カエルト ハー。 ダカラ ソレデ
もう それに 夢中なんですよ 小学校[から] 帰ると もう。 だから それで

ニチジョー アケクレテイタッテ ユーノワ ソーユー ジョーキョーデ タイヘン サガナガ
日常[が] 明け暮れていたと というのは そういう 状況で 大変 魚が

アノコロ オリマシテネ ゼンブ コー キドガワモ ジャカゴモ ナニモ
あのところ[は] おりましてね 全部 こう 木戸川も 蛇籠も なにも

ナグナッチャッテ。
なくなってしまうて。

007B: ジャカゴ ナンテ ワカンナイガナ。
蛇籠 なんて わからないかな。

008A: ワガンナイデショー ジャカゴ。
わからないでしょう 蛇籠。

009B: テーボー イマワ テーボーデ コンクリートデスクド ムカシワ コーユウ カナアミ・・・
堤防 今は 堤防で コンクリートですけれど 昔は こういう 金網・・・

010A: イシオ イレテネ。
石を 入れてね。

011B: カナアミノ ツツミタイナノニ イシオ イッパイ イレテ ソレオ ツミアゲテ。 ソコノ
金網の 筒のようなものに 石を たくさん 入れて それを 積み上げて。 その

アイダニ ウナギナンカネ。
間に 鰻などね。

012A: ダガラ ホノー ウナギトカ ソーユウ ドゴロニ スンデテ ダイブ イタンデスヨネ。
だから その 鰻とか そういう ところに 住んでいて だいぶ いたんですよ。

ダカラ ソーユウ ソレオ モグッテワ トッターリ ナニガシタ。 ソーユウ セーカズ
だから そういう それを 潜っては とったり なんかした。 そういう 生活

バッカリ シテタモンデスカラ シゼント モーネ。
ばかり していたものですから 自然と もうね。

013B:アトワ チッチャイネ ツリナンカモ シタンジャナイ? カジカツリ ナンカネ。
あとは 小さいね [魚の]釣りなども したんじゃない? 鰻釣り などね。

014A:カジカツリネ。
鰻釣りね。

015B:ウン。ワダシ ヨメニ キテガラモ チョット イッタッタカラネ キドガワニ。 フツーン
うん。私[が] 嫁に 来てからも ちょっと 行っていたからね 木戸川に。 普通の

タケンボニ・・・
竹の棒に・・・

016A:イヤ ウチノ オジーチャンガネ ヒジヨーニ マゴオモイデ ワダシ マゴッテ ヒトリ
いや 家の おじいさんがね 非常に 孫思いで 私 孫って ひとり

ひとり オトコダッタ モンデスカラ ガラスパゴオ ツグッテ モラッテネ ガラスパゴッテ
ひとり 男だった ものですから ガラス箱を 作って もらってね ガラス箱って

アルデショー。アノ ハコニ ガラス。 デ ソレオ ウカベテ カワオ
あるでしょう。あの 箱に ガラス[を入れて]。それで それを 浮かべて 川を

ナガメテ。
眺めて。

017B:ナカノ サカナオ ミルワケデス。
[川の]中の 魚を 見るわけです。

018A:ミルト サガナガ イシノ アイダガラ ヒョイヒョイト デテクル。
見ると 魚が 石の 間から ひょいひょいと 出てくる。

019B:イシノ カゲニ カクレテルノオ。
石の 陰に 隠れているのを。

020A:ソレオ ヤスデ コー ツイテネ。ソレオ トッテクルトネ バンシヤクニ コレ。
それを やすで こう 突いてね。それを 取ってくるとね 晩酌に これ。

021B:ユーシヨグニ。
夕食に。

022A:ハハハ ナッタ。 マゴ ダイジデ。 ムカシワ モー ソーユー
ははは [おかずに]なった。 孫[が] 大事で。 昔は もう そういう

オヤコノ カンケー カゾクノ カンケーッテ ユーノワ ソーユーノガ ツナガリガ
親子の 関係 家族の 関係と いうのは そうというのが つながりが

アッタンデスネ。ダガラ オジーチャン オバーチャン オトーサン オカーサンノ ホノ
あったんですね。だから おじいさん おばあさん お父さん お母さんの その

カゾクカンケーッテ ユーノガ ソノナカデ ヒカクテキ コノネ バランス ヨクネ
家族関係と いうのが その中で 比較的 このね バランス よくね

イキテイタッテ ユーノガ オモイデデスネ。 ソレガ イマ ダンダン ダンダン
いきていたと いうのが 思い出ですね。 それが 今 だんだん だんだん

ナグナッテ カクカゾクニ ナッテイクッテ ユーノワネー ソゴガ チョット ニホンモ
なくなって 核家族に なっていくと いうのはね ところが ちょっと 日本も

ナニガ サビシーヨーナネ カンジガ スルンデス。ヨゲーナゴド イッテ
なにか 寂しいようなね 感じが するんです。余計なこと[を] 言って

モーシワゲナイデス。
申し訳ないです。

—:いえ。ということをお聞きしたいんですけれど。我々、奥さんに語りかける、お話しをされる感じで
やっていただくとありがたいんですけれども。

023A:アー アー。
ああ ああ。

—:ええ。地元の人同士の会話のようにやっていただくとありがたいんですが。

024A:マー ベツニ ナラハノ ホーゲン アレワ ナイ。
まあ 別に 檜葉の 方言[は] あれは ない。

—:そうですね。

025B:マー デモ ニチジョーカイワデワ チョゴチョコ ショツチュー デテルワネ。
まあ でも 日常会話では ちょこちょこ しょつちゅう 出ているわね。

026A:ウン。タマニワ デルンデスケドモネ マー ショーバイジョー ガッコーノ キョーイン
うん。たまには 出るんですけれどもね まあ 商売上 学校の 教員[を]

ヤッテイタモンデスカラ アマリ ガッコ イッテネ・・・
していたものですから あまり 学校[へ] 行ってね・・・

一:そうですね。

027A:「ダッペ」ナンテ 「ンダガ」ナンテ ナガナガネ ソーユーノワ マー ツカーナイ
「ダッペ」なんて 「ンダガ」なんて なかなかね そうというのは まあ 使わない

ツカウツテ ユーコトワ アンマリ ナガッタモンデスカラ。 カイワツツツテモナ。
使うと いうことは あまり なかったものだから。 会話といってもな。

028B:マー ワタシ アサゴハン スンデカラ キョーワ オトーサン ナンノ ヨテーナノ
まあ 私[は] 朝ご飯 すんでから 今日は お父さん なんの 予定なの

ナンテワ ユーケドネ スット イヤ ハダケノ キョーワ ウエガエ ヤッターリドガネ。
なんては 言うけれどね すると いや 畑の 今日は 植え替え したりとかね。

029A:ホントニ ソノグライダネ。アトワ ガッコ ガッコーノ コトガ イソガシクテネ コッチワ
本当に そのくらいだね。あとは 学校 学校の ことが 忙しくてね こっちは

コッチデ チューガッコーデショー。 ワタシワ コゴデスカラ ソレゾレ ブンヤガ
こっちで 中学校[の教員]でしょう。 私は 高校[の教員]ですから それぞれ 分野が

イロイロ アツテ カテーニ カエツテキテモ ハー アシタノ シゴトデ アンマリサ
いろいろ あって 家庭に 帰ってきてても もう 明日の 仕事で あまりね

ハナシガネ。 ホントワ ソレガ イジバン イケナイ コトナンダケドモ。
話が[できなくて]ね。 本当は それが 一番 いけない ことなんだけれども。

(芥川春佳)

2017 年度文化庁委託事業報告書

福島県被災地方言の談話資料収集と保存継承活動

〒960-1296 福島市金谷川 1
福島大学 人間発達文化学類 国語学研究室
Tel/Fax 024-548-8124
e-mail yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp

印刷:2018 年 3 月 30 日

発行:2018 年 3 月 30 日
